

野兔食害防除の一考察

付知宮林署 加子母森林事務所 森林官 ○山 田 英 人
西 股森林事務所 森林官 木 島 伸 悟
東 股森林事務所 森林官 松 田 恵

1 はじめに

当署管内における生物等による森林被害の現況は、昭和53年度以降カモシカによる食害が目立ち始め、個体調整も含めて、様々な取り組みが行われてきた結果、食害はあるものの一定の成果が現れています。それに比べ野兔による食害は依然として減少傾向にないのが実態です。

丹精こめて植えた苗木を野兔から守るにはどうしたらよいか、今年度新植した箇所を対象に、20m×10mのプロットに60本の植栽木が含まれるよう設定し

- (1) 忌避剤ヤシマレントの塗布区域
- (2) 忌避剤ブラマックの散布区域
- (3) 伐根へのコールタール塗布区域
- (4) 鳥追いテープで、植栽木の周囲を囲った区域
- (5) 鳥追いテープで、植栽木の根元に表示した区域
- (6) 鳥追いテープで、植栽木の枝葉に表示した区域
- (7) 竹串によって植栽木の周囲に障害物を設置した区域
- (8) 無処理区域

の8区画で、追跡調査を行いました。

このように区画した区域の特徴としまして、①ヤシマレント・ブラマックの2種類の忌避剤は野兔、カモシカ共に効果があること。②コールタールは地元林業家が実践してみえることからヒントを得、植栽木1本1本に塗布すると下刈時期に気温の上昇に伴って衣服に付着することから伐根への塗布としたこと。③鳥追いテープは過去の研究発表においてカモシカ防除として成果発表のあったものを野兔に応用した。④竹串は今までの造林地で伐根や枝条等の障害物付近での被害が少なかったことに着目し竹串で障害物を作ることとしたものです。

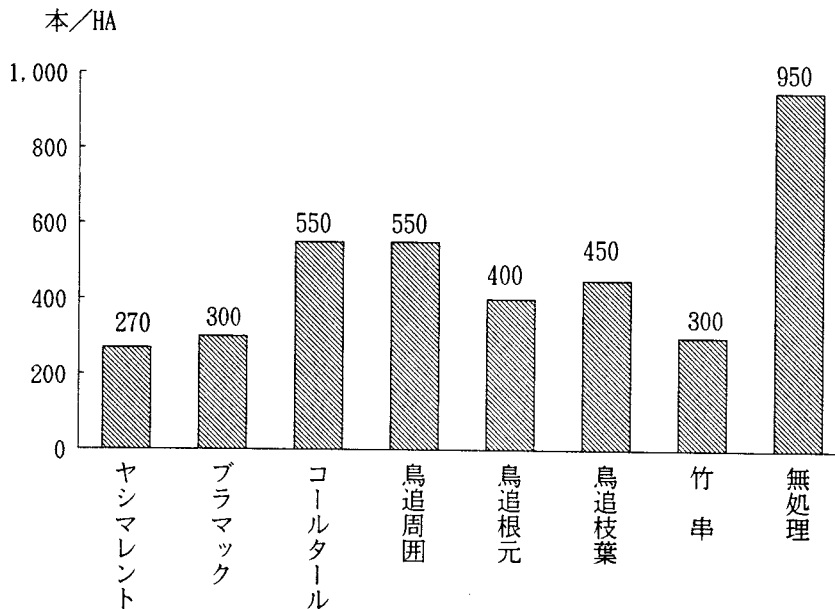
2 被害状況

- (1) ヤシマレント塗布区域では、薬剤の薄い部分と新芽に5本の食害がみられました。

- (2) ブラマック散布区域でも、薬剤の薄い部分と新芽に6本の食害がみられました。
- (3) 伐根へのコールタール塗布区域では、臭いの届かないと思われる箇所に11本の食害がみられ、うち1本は損害を受けていました。
- (4) 鳥追いテープを植栽プロットの周囲に巻いた区域では、進入可能な箇所から入ったと思われませんが、11本の食害がみられ、うち2本が損害を受けていました。
- (5) 鳥追いテープを植栽木の根元に取りつけた区域では、枝葉部に8本の食害がみられ、うち1本が損害を受けていました。
- (6) 鳥追いテープを植栽木の枝葉に取りつけた区域では、取り付け箇所以外に9本の食害がみられました。
- (7) 竹串によって障害物を設置した区域では、竹串の反対側に6本の食害がみられました。
- (8) 無処理の区域では、19本に食害がみられ、うち3本が損害を受けていました。

以上の結果をHA当りの食害本数に換算すると表1のとおりとなり、食害防除効果だけみれば忌避剤と竹串が効果的でした。

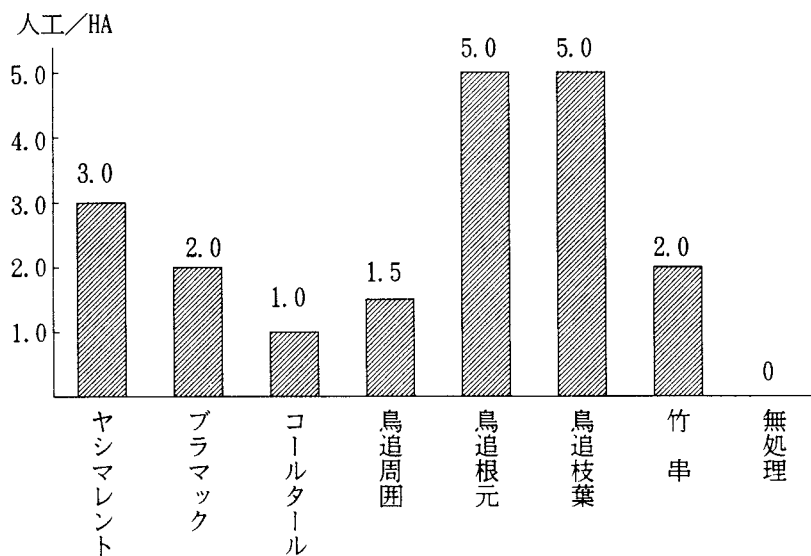
表 1 被害状況比較



3 作業工程

それぞれのプロットの作業工程をHA当りの人工数で比較すると表2のとおりとなり、作業工程だけで比較すれば伐根へのコールタール塗布が比較的容易でした。

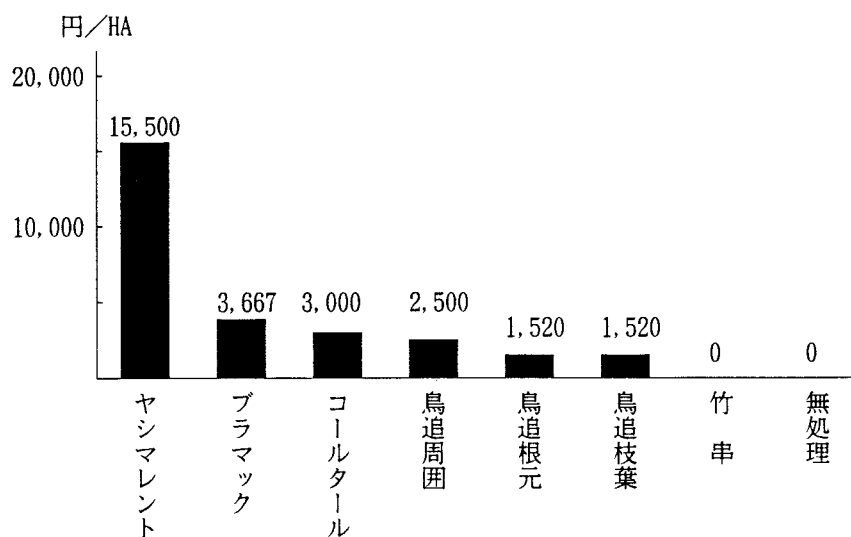
表 2 工 程 別 比 較



4 材料経費

それぞれのプロットの材料費をHA当りに換算すると表3のとおりとなり、竹串の竹は、竹林整理された所からいただいたことから、経費はかかりませんでした。

表 3 経 費 別 比 較

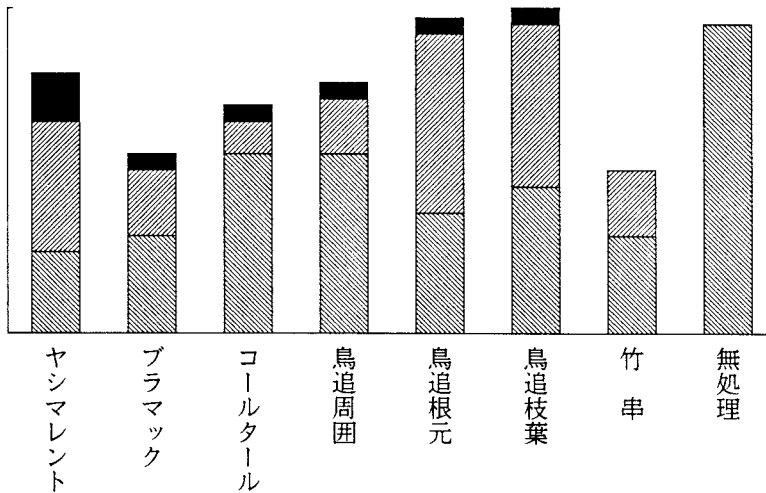


5 まとめ

被害・工程・経費等をまとめると表4のとおりとなり、野兔の食害を完全に防除する方法はありませんでしたが、ヤシマレント、ブラマック等の忌避剤や竹串を用いた方法が有効と考えます。

しかし、長期に渡って考えると忌避剤では新芽が食害にあうことから春と秋の年2回を毎年実施しなければなりません。それに比べ竹串を用いた方法では一回の設置で数年間の効果は持続するものと考え、竹串によって植栽木を保護する方法がよいものと判断します。

表 4 トータル比較



6 今後の課題

今回の研究では竹串を用いた方法で一定の成果を得ましたが更に防除効果を高めるために

- (1) 障害物の本数を2本から植栽木の周囲を囲うように3本に増設する。
- (2) 忌避剤との併用で更に防除効果を高める。
- (3) 竹串のかわりに枝条等現地で調達できるものを利用して能率の向上を図る。

以上3点を取入れながら今後は個体調整とあわせて実行していきたいと考えます。



植栽木の周囲に設置した竹串